

## セミナー②

「呼吸の謎解き：'呼吸の診かた' のアドバイス」

山形大学医学部附属病院 救急部 講師 副部長

○小林 忠宏

はじめに：患者さんの全身状態を表すバイタルサイン（意識レベル、呼吸数、心拍/脈拍数、血圧、体温）は、急性期でも慢性期でも病態の判断に重要な役割を果たします。病院の外来や、訪問/在宅診療での現場、入院病棟や集中治療室、処置室・手術室。バイタルサインを無視してよい医療現場はどこにもないと言えるでしょう。その中で、呼吸数はその存在が軽視されがちなバイタルサインと言えます。精神的な動揺や、食事、歩行など日常生活動作で容易に変動し、経皮的酸素飽和度（SpO<sub>2</sub>）センサーが一般的な今日では、酸素化についてはこちらの方がわかりやすいということもあります。

しかし、その変動のしやすさが感度の高さにもつながり、患者さんの全身状態の悪化に伴って真っ先に変化するバイタルサインが呼吸数だったりもします。呼吸数の重要性は、患者さんの全身状態を表す数々のスコアにもその項目が入っていることから明らかです。そして、患者さんの呼吸パターンにも目を配り、それらがもたらす身体所見の変化も観察できるようになると、呼吸状態の変化を入り口として、患者さんの全身状態の把握ができるようになります。本講演では、患者さんの全身状態、特に呼吸状態悪化の‘謎解き’において役立つようなアセスメント、‘呼吸の診かた’について、明日からの診療業務に役立つようなエッセンスを散りばめて述べていきたいと思えます。

○本講演で身につくこと：

- 呼吸数の重要性が理解できるようになる
- 呼吸パターンの違いが理解できるようになる
- 身体所見の観察ポイントがわかるようになる

○本講演で期待される効果

- 患者さんの呼吸数に自然に目が向くようになる
- 患者さんの呼吸パターンから、患者さんの状態を想像するようになる
- 患者さんの身体に触れて、診察することが楽しくなってくる

### 【ご略歴】

2003年 山形大学医学部医学科を卒業し、太田西ノ内病院で初期研修後、国立国際医療センター（現 国際医療研究センター）、筑波メディカルセンターで救急医として研鑽し、山形大学に戻ったのち、カナダ トロント大学集中治療部へ3年留学。現在は山形大学医学部救急医学講座 講師、同附属病院 救急部副部長。海外資格として欧州集中治療医学会専門医、国内資格として救急指導医・専門医、集中治療専門医、呼吸療法専門医、蘇生指導医を保持。医学博士。